

平成22年度一般会計当初予算説明資料

7款 商工費
1項 商業費
4目 貿易振興費

経済通商総室（内線：7659）

（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起 債	その他	一般財源	
環日本海圏航路 利用促進事業	13,498	18,113	△4,615				13,498	
トータルコスト	25,600千円（前年度 37,169千円）[正職員：1.5人 非常勤職員：0人]							
主な業務内容	航路の周知、利用促進のためのPR、情報収集、企業訪問等							
工程表の政策目 標（指標）	境港の物流拠点化及び境港の取扱貨物量増加 （貨物取扱量 目標 5,200千トン、コンテナ取扱量 目標 21,900TEU）							
<p>説 明</p> <p>1 事業概要 環日本海定期貨客船航路の安定運航に向けた利用促進を図るため、認知度向上に資する取組みを行うもの。</p> <p>2 主な事業内容</p> <p>(1) 航路利用促進懇談会（セミナー）の開催 1,085千円 荷主企業・物流関連企業などを対象とした航路説明会を県外で開催。 ミニ講演や貿易セミナーなどを行い、境港利用に繋がる具体の海外ビジネスを紹介することで、境港利用を促す。</p> <p>(2) 境港視察ツアーの開催 1,035千円 境港に県外の経済団体、企業等を招き、貨客船利用の現状を視察、見学。</p> <p>(3) 新聞・雑誌広告、看板の設置 11,378千円 ①国内全国紙における新聞広告の掲載 ②(新)国内ロシア専門誌における雑誌広告の掲載 ③(新)ウラジオストク市内における看板の設置</p> <p>3 これまでの取組状況、改善点</p> <p>【指標】貨物取扱量 目標 5,200千トン、コンテナ取扱量 目標 21,900TEU 【現状】貨物取扱量 H20実績：4,111千トン、コンテナ取扱量 H20実績：15,271TEU</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年6月29日、韓国・東海港から境港に向け、貨客船航路の正式就航を実現。併せて、関連行事の実施を行い機運の盛り上げを図ったとともに、航路の周知等に向けた各種事業を重点的に実施した。（新聞広告の掲載、航路利用促進懇談会等の開催） その結果、延べ乗客数は平成21年12月末時点で20千人を超え、旅客面では順調に推移。一方で、貨物利用が低調であることから、その確保に向け継続した努力が必要。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 航路利用促進懇談会は飲食を伴う懇談会方式はやめ、セミナー的な中身に力点。貨客船航路に特化した内容とした。 ベースカーゴ（航路維持に係る主力貨物）になり得る荷主企業を主たる対象とし、経済団体等幅広い関係者の視察対応は、県外本部と連携し規定の予算で対応。 APEC（アジア太平洋経済協力会議）が行われるまでの期間は、特に、ロシア極東における貨物獲得に向けた情報発信の好機であることから、国内だけでなく国外での情報発信力も重視した事業展開とした。 								